

# 真狩村における担い手組織の活性化と学びの場の創出 ～真狩ドリームファクターズへの組織活動支援～

対象：真狩ドリームファクターズ 17名

活動年次：令和2～5年度 本所地域第四係

## 活動の背景

### 地域の概要

\*農業センサス

地名	年次	合計数 (人)	年齢別基幹的農業者数(人)		
			15～29	30～59	60歳～
真狩村	2010年	437	33	214	190
	2020年	296	14	136	146
	増減数	-32	-19	-78	-44

地名	年次	合計 戸数 (戸)	経営規模別農家戸数(戸)				
			～ 20ha	20～ 30ha	30～ 50ha	50～ 100ha	100ha ～
真狩村	2010年	156	103	31	16	5	0
	2020年	125	63	34	20	7	1
	増減	-31	-40	3	4	2	1

### 課題

- ・農業人口の減少
- ・担い手の減少
- ・経営面積の増加
- ・農業情勢の変化による経営状況の変化
- ・コロナ禍による学びの場の減少

### 活動のねらい

#### 【プロジェクト活動の実施】

- ・会員の資質向上
- ・組織活動の活性化

#### 【自己課題の設定】

#### 【学習会の開催】

- ・各自の経営に合わせた技術、知識習得
- ・学びの場の創出

## 活動と成果のポイント

### 1. 役員とのプロジェクト計画の作成

円滑にプロジェクト活動が遂行できるよう役員と計画協議  
定例会にて、会員全員から承認

#### 成果のポイント

R4年は、ながねぎの試験栽培を実施  
R5年は、加工用キャベツの試作を計画



機械化できて  
省力的な作物を作ろう！！

写真1 会員同士で計画協議

### 2. プロジェクト活動の実施

真狩村役場から  
試験ほ場提供などの支援

#### 成果のポイント

- ・本会の活動の活性化
- ・栽培試験方法を会得
- ・ながねぎは、2戸が導入
- ・作業体系・労働時間に関わる理解が深まった。



写真2  
キャベツのは種作業



写真3 ほ場の確認と情報交換

仕事で忙しいから夜にやろう！！

がんばれ新会長！！

### 3. プロジェクト活動のまとめと各種報告



写真4 R5年後志アグリフォーラムで発表



写真5 R5年後志アグリフォーラム最優秀賞を受賞

プロジェクト活動のまとめ・発表の実施  
真狩村役場への報告

#### 成果のポイント

- ・PDCAサイクルを理解
- ・他地域との交流
- ・関係機関からの理解
- ・会員の自信がつく

### 4. プロジェクト活動意外の活動

種苗費低減のために成功させてみる。



写真6 さつまいもの育苗による苗増殖に挑戦

効率化のためには次に何をすべきか。



写真7 定植作業の最適化検討

自己課題を設定し、各自の取り組みを開始

#### 成果のポイント

自ら課題解決を図ろうとする意識が醸成された。

### 5. 留寿都村青年団体協議会との合同研修会の開催

初めて留寿都の農業者と話すことができた。



写真8 留寿都村の大根ほ場視察

加工ばれいしょについて説明します。



写真9 会員自身がほ場を説明

留寿都村青年団体協議会と連携し、学習会を開催

#### 活動の成果

担い手の地域を跨いだ広域交流の促進

## 今後の対応

### プロジェクト活動実施への支援

調査・作業・プロジェクト発表への助言を継続する

# 適正施肥によるブロッコリーの安定生産

～施肥量削減による製品歩留まりの向上とコスト削減の取組～

対象：真狩村・ニセコ町 ブロッコリー作付農業者 43戸 活動期間：令和5年度

## 活動の背景

○JAようてい管内では近年ブロッコリーの作付が増加し、園芸作物の主力品目となっている。  
○施肥方法が従来の全層施肥から作条施肥が主流になり、多肥傾向が顕在化している。

↓  
作条施肥の減肥効果を検証する。

作付戸数・面積

真狩村：21戸・14.8ha

ニセコ町：22戸・8.1ha



肥料が高くて大変。  
夏場は茎空洞や腐敗  
も多いし……。

作条施肥だと肥料減らして  
も大丈夫なの？



## 活動のねらい

ブロッコリーの安定生産(製品品質・歩留の向上・肥料コスト低減)

## 活動の経過

○真狩村・ニセコ町と条件の異なる2地区に実証試験ほを設置。JA、生産組合とともに検証した。



JA・生産部会・普及センターで協力して取り組みましょう！

試験ほの設置は生産部会の役員さんをお願いしました。



苗質は良好！  
調査は任せて下さい！



試験ほは  
①慣行比10%減肥  
②慣行比20%減肥  
として設置しました。



## 活動と成果のポイント

### 実証展示ほの結果

○生理障害や病害の低減効果は確認できなかったが、製品収量に影響はなく、費用削減により経済性に優ることを確認した。



10%減肥、20%減肥ともに収量は慣行と遜色ないね。

ということは・・・作条施肥なら減肥しても大丈夫！  
施肥コストの削減につながるね！

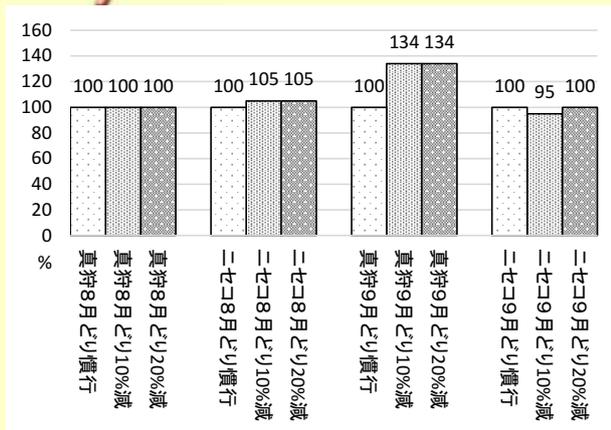


図1 収量調査(慣行対比)

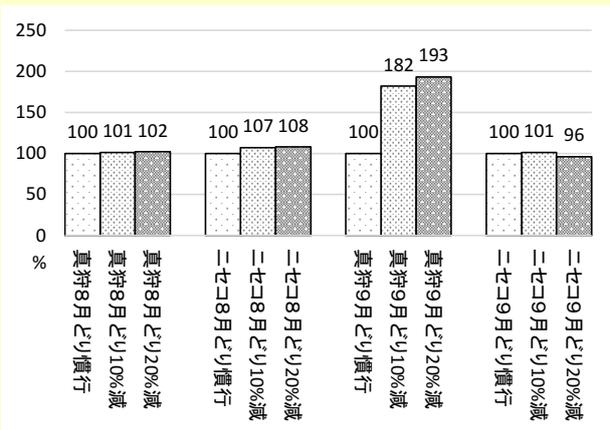


図2 経済性調査(慣行対比)



写真4 9月どり(二セコ町)  
20%減



写真5 9月どり(二セコ町)  
10%減



写真6 9月どり(二セコ町)  
慣行

### 取組の発信

- ・JA営農指導員研修で試験を紹介。
- ・生産組合の青空教室で概要を説明。
- ・生産組合役員会で結果を報告、生産組合全体に広く波及することを確認した。



### 今後の対応

- ・総会や全体会議でこの結果を生産組合へ報告し、普及拡大を図る。
- ・本年度で普及可能な結果が得られたことから、本課題は終了し、一般活動で対応する。

# 赤井川村女性農業者による農産物PRイベント

～ カルデラ女子による「自己実現」と「地域振興」への挑戦 ～

対象：赤井川村カルデラ農家女子 7人

活動期間：令和5年度

支所地域係

## 活動の背景

地域の現状	女性グループの課題	普及センターの支援	目標
①女性農業者のグループが設立 ②若い世代の女性を中心となり活動	①自身の活躍の場が少ない ②自己実現の場を模索している	①地元農産物を使ったお弁当販売イベントの企画・開催	①地元野菜を使った弁当を100食販売 ②女性自身の力でイベントを開催

## 活動のねらい

・女性が活躍する農業・農村の確立

## 活動の経過

お弁当販売イベントに向け、カルデラ農家女子と関係機関が一体となって活動



写真1 イベント開催に向けた打合せ

表1 関係機関との役割分担

各機関	支援した内容
役場	イベント会場の提供、村民への周知
商工会	他地域における優良事例を情報提供
J A	農産物の収集と提供
普及センター	関係機関の調整、イベント運営支援
地元企業	ポスター作成、お弁当の製造
保健所	衛生管理の助言
女性農業者	企画立案、食材提供



図1 10月13日にイベント開催

## 活動の成果

自らの力で企画・運営！



写真2 10回以上に渡る作戦会議



写真3 女性が考案した「村ごはん」

目標を大きく上回る 114食を完売！



写真4 素敵なお弁当に村民も笑顔

アグリフォーラム でPR！



写真5 後志全域に宣伝しました

- ◇ 赤井川村農産物の魅力を発信できる **自己実現** の場に！
- ◇ 女性農業者の **活躍の場** が創出された！
- ◇ 女性が活躍する農業・農村へ向け **第一歩** を踏み出した！

## 今後の対応

- ・ 課題や問題点を整理し、長期的な活動が可能になるように支援する。

# モニタリングデータを活用する農業者の育成

～ 農業DXでパプリカのポテンシャルを最大限に引き出そう！ ～

対象：仁木町・赤井川村 パプリカ作付農業者 2戸

活動期間：令和5年度

支所地域係

## 活動の背景

### 地域の現状

- ① 2戸が環境モニタリング機器を導入
- ② データ活用モデル農業者に位置づけ

### 2戸の課題

- ① 環境モニタリングの知識が不足
- ② データを有効に活用できていない

### 普及センターの提案

- ① パプリカの生育や環境データを把握
- ② データに基づく栽培管理の改善

### 目標

- ① 土壌水分の最適化
- ② 整枝の改善による葉面積の確保

### 活動のねらい

- ・パプリカの生育や環境を可視化することで、農業者の主体的な学びと成長を促す
- ・データを用いた的確な栽培管理を行う人材を育成する

## 活動の経過

### 1 支援チームの立ち上げ

－ J Aと普及センターでパプリカ栽培農業者（2戸）を包括的に支援－



図1 指導チームのイメージ

表1 指導チームの活動内容

時期	活動内容
4月	立ち上げ、活動打合せ
4～10月	生育調査、適正葉面積検討
5～10月	生育・環境データ共有、現地検討（月2回）
6月	先進地視察

### 2 先進地視察の実施

－ 平取町で変温管理と葉面積管理を調査－



写真1 実践状況の調査

### ※ 変温管理の考え方

＝ 光合成と転流を意識した温度管理＝

- ・日の出前から徐々に加温
- ・日射の増加に伴い室温を上げる
- ・日射の強い13時頃に最高室温にする
- ・その室温を日没まで維持
- ・日没後は急激に室温を低下させる

### ※ 葉面積管理とは

＝ 光合成を最大化する葉面積の管理方法＝

- 3 モニタリングデータを活用したパプリカ栽培の検討
- 「土壌水分」「草勢」「葉面積」の現状を数値化-
  - 適正值と現状の差を埋める栽培管理を検討-



写真2 データに基づく管理を検討

表2 現地意見交換での検討内容

月	主な検討内容
6月	温度が草勢と生育に与える影響
7月	適正な葉面積とその確保
8月	土壌含水率とpFの関係
9月	モニタリングに基づく適正管理
10月	栽植密度とハウス内温度の関係

## 活動の成果

### 1 農業者の変化① 水分ストレスのない かん水管理へ！

- Step 1** pF値を見る  
↓  
**Step 2** 適正值と現状の差を把握  
↓  
**Step 3** 差を埋めるためのかん水を調整



土壌水分が適正になった

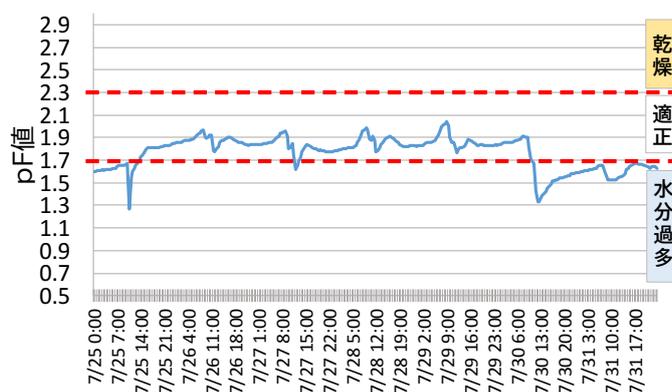
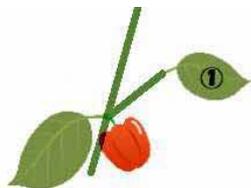


図2 適正範囲内で推移する pF値

### 2 農業者の変化② パプリカの 光合成能力を高める 整枝管理へ！

【Before】作業性重視の整枝

【After】光合成重視の整枝



LAI 1.28㎡/㎡

図3 側枝1節残し



LAI 2.29㎡/㎡

図4 側枝2節残し



葉面積が増えた

※ 1㎡あたりのLAI=株あたり葉面積(節毎の葉長(m)×葉幅(m)側枝葉数/1㎡あたり株数)

## 今後の対応

- ・パプリカ部会を対象とした普及活動への切り替え。
- ・モデル農業者と連携した人材育成の拡大。

# 摘葉剤でりんごの葉摘み作業が2割減

～ 省力技術で産地を守り抜く ～

対象：余市町りんご省力化栽培推進連絡協議会 8戸

活動期間：令和5年度

支所地域係

## 活動の背景

### 地域の現状

- ①りんごが主要品目  
(作付け約200ha)
- ②高齢化により  
栽培者が減少

### 地域の課題

- ①りんごの  
作付面積を維持
- ②そのためには  
省力化栽培を導入

### 普及センターの提案

- ①摘葉剤を活用した  
葉摘み作業の  
省力化

### 目標

- ①作業時間の短縮
- ②労働費の削減
- ③実践農業者の確保

### 活動のねらい

- ・りんご省力化栽培の定着
- ・りんごの作付面積を維持

## 活動の経過

### 1 摘葉剤（ジョンカラープロ）を使った省力化を提案

(1) 農業者に提案した



(2) 皆で検討した



### 2 実証展示

(1) 実際に使ってみた



(2) 効果を確認した



### 3 効果を検証

(1) 落葉率は？作業時間は？経費は？



(2) 品質への影響は？



## 活動の成果

1 **4人** の農業者がチャレンジ！

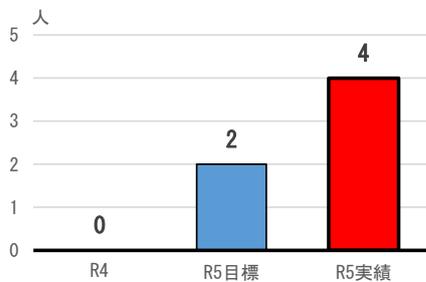


図1 省力技術の導入農業者

2 葉摘みの労力が **2割** 減った！

薬剤散布のみで **53%** の葉が落ちている

農業者	作業時間 短縮率(%)	落葉率(%)
I	20~30	77.8
S	5~10	55.5
N	30	45
M	20	35
平均	<b>20</b>	<b>53</b>

3 経費が **4,400円** /10a 削減！

区分	経費内訳	合計
散布	人件費 (960円×41.7時間)	40,032円
	農薬費 (散布量300Lで展着割合)	3,279円
	その他 (SS使用料ほか)	2,300円
慣行	人件費 (960円×52.1時間)	50,016円
差額		4,405円

4 品質への影響 **無し!**

区分	調査果重 (g)	糖度 (%)	酸度 (g/100ml)	硬度 (pd)	着色 (%)	地色 (指数)	蜜 (指数)	食味 (指数)
散布	359	14.4	0.43	13.0	99	4.8	2.0	4
慣行	362	14.0	0.40	12.9	97	5.0	2.3	4

5 令和6年の **防除手引き** に掲載！

## 今後の対応

- ・防除手引きに掲載されたことから、地域への浸透が考えられる。
- ・使用方法の問い合わせに対し、個別に対応する。

# 学ぶ機会を創出し、青年農業者を応援

～農業ゼミナール・アグリフォーラムを開催～

対象：後志管内新規就農者

活動年次：令和5年度

広域係

## 活動の背景

### ■後志管内新規就農者の就農実績（H29～R4）

農家子弟（新規学卒者）	38名
農家子弟（Uターン）	45名
新規参入者（Iターン）	118名

就農人数は減少傾向にあるが、学びたい意欲のある若者が多い

各市町村単位の青年農業者組織活動が減少  
自分たちの学ぶ場づくりがなかなかできない現状



### 【目的】

学ぶ機会を提供し、青年同士の交流を深める



## 活動と成果のポイント

### ○農業ゼミナール開催により青年農業者の行動変化の兆しが見えた！



担い手担当者が各青年組織へ研修ニーズを把握

研修ニーズに合わせたテーマ”病虫害防除”を設定。「畑を観察する眼を養うことで、病気の予知と適期に防除する人になって欲しい」



青年農業者のニーズを把握する担い手担当者

講師と綿密な打ち合わせを実施

わかりやすい研修会を目指し、研修会の流れを考える  
そうだ！問題形式にしよう！！  
担い手担当者が問題を作成



研修会を開催。講師とのコンビネーションはばっちり

結果、参加者の理解度は高く、4.7点！！（5点満点）

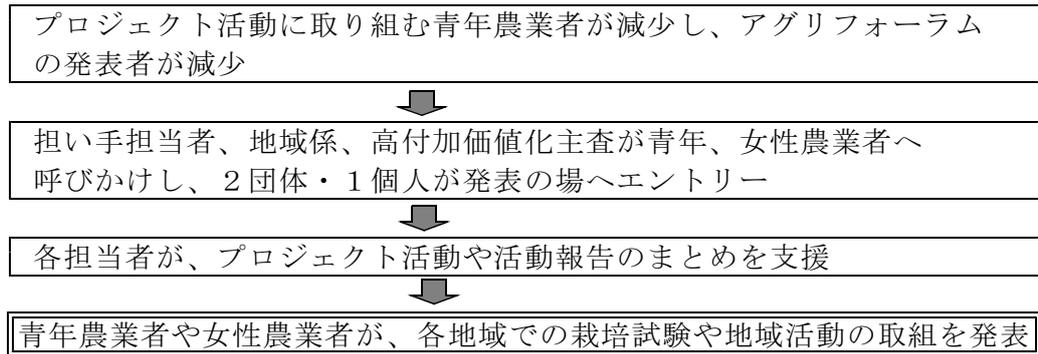
グループワークで答えを考える青年達

参加者の感想

実際には場を良く調査して、害虫を特定しようと思った



## ○アグリフォーラムが情報交換の場になった！



参加した青年農業者・女性農業者の感想  
 新規作物導入の参考になった  
 還元消毒法に興味をもった。是非結果を知りたい  
 農業を楽しんでいるのがとても良かった



刺激を受ける場になった！

## ○研修企画員が8名集まった！

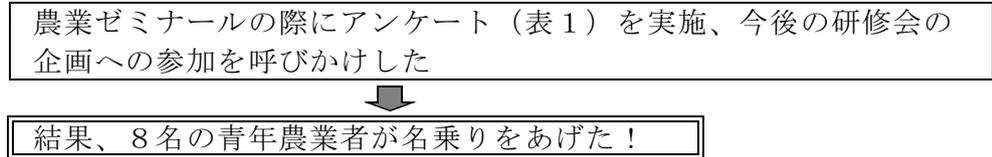


表1 研修企画参加にむけたアンケート

①是非、参加する	1名
②都合があえば参加する	5名
③だれかいるなら参加する	2名

## 今後の対応

- 研修ニーズ把握結果をもとに、青年農業者の研修企画員とともに担い手担当者と振興局で農業ゼミナール2カ年計画を作成し、支援を行う。
- アグリフォーラムは、学びのアウトプットの場として今後も呼びかけを推進する。

表2 青年農業者の研修ニーズ把握結果

分野	研修会の内容	応募者数
労働	①安全で働きやすい環境づくり（農用—労働者間）	12
	②エンジンの止め方から学ぶ農作業機械の活用	8
	③スマート農業とは	7
生産技術	④土壌と施肥について	9
	⑤肥料を知り、豊産するためには	11
	⑥後継者の育成、2年間の研修会の効果は	13
経営	⑦経営シミュレーションで将来の経営を後継	7
	⑧農業法人のメリット・デメリット—実態者の声	7
	⑨経営継承をスムーズに行うための研修	6
その他	⑩現場に精通した農業	6



# 後志有機農業ネットワーク活動支援

～ネットワーク活動による有機農業の取り組み拡大支援～

対象：後志有機農業ネットワーク会員、有機志向農業者

活動期間：令和5年度

## 活動の背景

### 管内の有機農業の現状

- ・管内の有機JAS認証農業者は34件
- ・活動休止状態だった「有機ネット」は昨年度活動再開した

「みどい戦略」  
「SDGs」

表1 管内町村別有機認証取得農業者数

市町村名	本所管内						支所管内				
	島牧村	蘭越町	ニセコ町	真狩村	喜茂別町	倶知安町	共和町	積丹町	仁木町	余市町	赤井川村
認証農業者数	1	1	4	1	1	1	3	1	3	2	16
合計	12						22				

有機農業者相互の情報共有が必要！

「後志有機農業ネットワーク」  
活動活性化・新規会員拡大

有機農業者の育成  
有機志向就農者の定着

有機農業の拡大

## 活動と成果のポイント

### ○後志有機農業ネットワーク活動活性化

#### ① 後志有機農業ネットワーク会員巡回

日時：令和5年7月～9月

場所：管内全域

対象者：後志有機ネットワーク会員・関係機関  
(会員11名、関係町村担当者)

みなさん販売はどうしているの？



会員巡回

#### ○聞き取り結果(活動内容の希望)

- ・先輩農業者のほ場見学
- ・農業高校生との交流
- ・販売へのSNSの活用について  
など

## 会員の要望を活動に反映し、ほ場見学と販売をテーマに研修会を開催

### ② 後志有機農業ネットワーク夏期研修会

日 時：令和5年9月27日(水)

場 所：島牧村 HappyPlaceほ場・放飼場

出席者：会員、関係機関あわせて9名

#### ○開催内容

- ・ほ場等見学(ミニトマト・養鶏)
- ・意見交換



共同で使える加工場  
があるといい

有機農業と養鶏は  
相性がいいね



### ③ 後志有機農業ネットワーク冬期研修会

日 時：令和5年12月7日(木)

場 所：後志農業改良普及センター会議室

出席者：会員4名

#### ○開催内容

- ・第7回販売活動レベルアップ講座 聴講  
(「商品のPR方法を学ぶ」他)



販売にSNSを活用  
してみます！

みなさんいろいろな活動  
しているんですね、勉強  
になりました！

## 今後の対応

- ・活動に積極的な会員の要望に沿った支援を行う。
- ・農業高校との交流など、有機農業の理解促進に向けた活動に取り組む。

# 価値の発信に挑戦し地域の未来を開く農業者を育成！

～販売活動レベルアップ講座を開講～

対象：高付加価値化実践農業者 活動年次：令和5年度 広域（高付加価値化）

連携機関：後志総合振興局、市町村、農協、直売所

## 活動の背景

令和3年度に実施した「加工・販売レベルアップ研修会」の受講生より、販売に特化した研修継続の要望が寄せられた。販売力を高めるためには、マーケティングを学び、実践できる人材育成の場を創出する必要がある。

研修会受講生から、販売、デザイン、PRなどの方法への要望が寄せられる。



方法論の前に、商品や農場の価値を見つめ直す必要がある！

- なぜその活動を行うのか→基本理念が不明確…
- 商品・農場の価値は何か？  
→商品PR情報が未整理…

販売活動レベルアップ講座を開催  
2年間でマーケティングを段階的に学び、基本理念や商品PR情報を明確化し、販路を開拓できる人材を育成する。

令和4年度はプレ講座を含め4回開講し、基本理念と商品PR情報の整理に着手した。

## 活動と成果のポイント

### 活動1 販売活動レベルアップ講座を開催！

#### 第4回：管内優良事例視察



自分の努力と周りの協力でお互いに発展できることがわかった。

↑ 観光農園視察  
果樹園視察→



#### 第5回講座：商談会へ出展



振興局主催の商談会  
5組7名が出展！

バイヤーが商品の価値を求めていることを実感した！



#### 第6回：事例発表、講義



価格のしくみを理解し原価計算に取り組む意欲が湧いた！

職員からの原価計算の講義↑

管内農業士の事例発表に対し積極的に質問する受講生→



#### 第7回講座：講義、事例発表



← SNS関係の講義  
↓ 管内農業士から事例紹介

SNSでのPRに挑戦したい！





自分と地域のファンを増やしたい!

新たに始める人へ伝達できる人になりたい! 高齢者の活躍も検討したい。



## 活動2 受講生の状況に合わせて個別に活動を支援!

### 🍅 商談会への出展 🍅

〈出展準備の支援〉

- ・商品の発注条件の整理
- ・商品の特徴、生産・製造工程の整理など
- ・展示及び試食方法の検討

商品の特徴は、自分らしいの言葉で伝えましょう!



〈出展当日の支援〉

- ・各受講生の出展のサポート

人脈を広げるチャンスですよ!  
バイヤーに商品の評価も聞いてみましょう。

### 🍅 パッケージの検討 🍅



自分のイメージに合うデザイナーを探して相談してみましょう。



刷新されたパッケージデザイン

### 🍅 生産原価の検討 🍅

まずは、農協の営農類型を元に、費用と労働時間を、確認してみましょう。



基本理念が定まったので、将来に向けて価格を検討したい!

電話やメールでも対応!



価格の設定は、生産原価、ターゲットに合わせた値頃感なども考慮しましょう。

**成果1** ▶ 基本理念は16名が、商品のPR情報は9名が明確になった!

**成果2** ▶ 個々の活動がレベルアップ!

**成果3** ▶ 地域のリーダーとしての資質が向上!

## 今後の対応

講座は令和6～7年度に2期目を開講する。令和6年度は以下の活動を実施する。

★ 2期目の企画と開催

★ 関係機関・農業者との連携